

令和 7 年度中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J YEAR 3)について

都立高校入試へのスピーキングテスト導入の中止を求める会 2025/12/3 記者会見資料

一向に改善もされない ESAT-J

1. 公正・公平な試験運営体制が4年たっても確立できず (14件/50)

現場からも試験官のミスにより生徒が被害を被った例(主に再試験)が数多く寄せられています。あってはならない他の生徒の解答が聞こえる、前半後半生徒同士での情報もれ情報も(生徒からの聞き取り情報として)今年度も寄せられています。都教委はなぜ見て見ぬふりをし続けられるのか？

*教員の声

- ・試験官が生徒の準備が整っていない中で試験を始めてしまい、再受験となった生徒が出てしまった。
- ・試験官が開始の動きをしたため、スタートボタンを押してしまった生徒が、複数名再試験になった。
- ・イヤホンジャックが抜けていたために再受験という通知を後でもらった生徒が出た。
- ・問題漏洩(休憩中に前半組と後半組で話をしていて、待機中に隣の教室から音声が入ってきた、実施中に周りの音声や回答が聞こえてしまう、もしくは周りが回答を真似)。
- ・イヤーマフ*(←ヘッドセットのことかと思われる)があわない、画面が変わらない、音声認識しないなど機器のトラブル。

2. 教員への過重負担は明らか (47件/50)

3年生進路指導をかかえながら、効果もわからず、生徒のモチベーションも上がらないテストへの対応を迫られ続けている教員の悲鳴がとまりません。

*ESAT-J がどれくらい教員の仕事を増やしているかというと・・・

ESAT-J 専用ポータルサイトの周知や中学校管理者用ページの管理など Web 登録にかかわる作業
申込サポート、申込の確認作業
配慮を要する生徒(特別支援、外国籍等)の対応
不登校生徒への対応
保護者対応・説明
市区町村・東京都教育委員会窓口との連絡
教科指導(ESAT-J 対策等) *学校によって差がある
当日に向けての事前指導(交通・持ち物・服装等...)
当日対応(学校待機等) *教員が善意で自主的に行っている場合が多い
不受験者・欠席者への対応(追・再試験申込含む)
テスト実施後の教育委員会への報告
調査書への記載、点検

＊教員の声

- ・申込みを保護者側が行うことになっているが、結局学校側で確認をし、修正を保護者に依頼する、という二度手間が発生している。
- ・何度も申し込むよう本人や家庭に連絡しているが、申し込まない家庭が一定数いることで、教委からは申し込みさせてくださいと催促される。こちらは何百回も言っている。通常学校業務に支障が出ている。
- ・不登校生徒については、中々連絡を取ることができないご家庭もあったため、申込みの連絡や事前指導にも時間がかかりました。
- ・ESAT-J が始まるまではなかった業務が確実に増えている。専用の電話窓口があっても、結局登録、申し込み手続きなど現場任せになっている。
- ・欠席連絡の最終日が今年度は休日だったため、学校として対応が難しい。
- ・ずっと問題になっているが、改善されないなので、このまま無視して実施していくのでしょうか。そのうち、声を上げることもバカバカしくなっていくと思われます。

この試験の問題を4年前から訴えてきましたが、残念ながら、その声を都教委は全く顧みず、毎年多くの受験生が理不尽な思いをし、その受験生を抱える保護者もストレスを強いられ、教員もこの試験のための様々な対応で疲弊しています。到達度テストとしても入試としても不完全で、公正・公平性の保てないこの試験は、都民の血税を無駄にしていると言わざるを得ません。都教委はまずは生徒や教員への実施状況調査を、自分たちで責任を持って行い、この試験を総括し、都議会や都民にもきちんとした説明を行うべきです。それを頑なに行わず、都議会でもひたすら質問にまともに答えようとしないのは、ESAT-J が公正・公平な試験運営体制が構築できない構造になっていることを明らかにされたくないからと言わざるを得ません。このような ESAT-J の都立高校入試への活用はすぐに中止すべきです。

マスコミの皆様には、この間の都教委の対応のおかしさを追及し、都民に広く伝えていただきますようお願いします。